

ハッピーウォーク
 Happy Walk



2019年3月2日



2019年6月30日

当地区協議会設立以降、年2回のハッピーウォークが3月と6月にPTA校外部の皆さんの協力のもとに実施された。3月のは、主に飛び出し危険箇所や道路表示の不備を重点的にチェックした。同行した協働推進課の小林氏も積極的に関心を示し、後日早急な対応をとってくれた。6月のは、ハザードマップの浸水域ラインに沿って地域の高低差を感じながら水浸緊急時の安全な避難経路を歩きながら確認した。

← 今年梅雨明けが遅くなり天候の不安を抱えながらの準備でした。第一日は校庭で開催できましたが、二日目は雨天のため体育館となりました。



二日目のロータリー
 体育館での踊り

盆踊り
 2019年7月13～14日

体育館での開催は経験がなく多少の心配がありましたが関係者皆さんの綿密なシミュレーションと冷静沈着な協力体制により、混乱もなく無事二日間を終えることができました。雨で濡れた提灯やテントもその後一週間かけて片づけを行い、実行委員長の金山耕治さんは「皆さん一人一人のご協力に大変感謝しています。」とホットとした声で話してくれました。

2019年総会 5/31 (金)



上記表題の通り、この健康支援センターで、地区協議会が開催され、今年度の活動報告と新年度の活動計画、また決算と予算案が承認された。また、新運営委員（左記参照）の紹介も行われ、一年間の活動への新たな思いを一緒にし、無事に閉会となった。

新運営委員

自己紹介



益子 和也さん
 (ますこ かずや)

調布市社会福祉協議会このころの健康支援センターで、主に精神障がいや発達障がいのある方々の就労支援を担当しています。今回初めてこのハッピータウン協議会に参加させていただきます。これから皆様にいろいろと教えていただきながら、挨拶と笑顔を大切に、何かのお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



山田 達也さん
 (やまだ たつや)

今年度布田小 PTA 会長を務めさせていただくことになりました。地区協議会の活動に参加させていただき、いかに地域の皆様のサポートが子供たちにとって大切であるかを実感しております。地区協議会を通じて子供のために PTA として何が出来るのかを考えながら活動させていただければと思います。何卒よろしくお願いいたします。

3月2日実施



調布市出前講座

主催：布田小地区ハッピータウン協議会

浸水時の対応を考えよう

春まだ浅い3月2日(土)、こころの健康支援センターで、当地区協主催の出前講座が開催された(参加者34名)。まず最初の調布市総合防災安全課の野尻主事と牛尾主査による講義は、水害から身を守るためには何に注意しどんな備えをしておくべきか、という観点の内容。重要なポイントには、①短時間大雨の発生確率は年々高くなっていること、それに伴い平成29年10月に改訂された調布市洪水ハザードマップは、調布市に洪水を引き起こす大雨の想定を、それまでよりも三割ほど厳しい条件に引き上げたため、②従来のハザードマップよりも浸水想



総合防災安全課の講義

定区域は広く、浸水ランクは深くなったことの二点。日頃の備えとしては、ハザードマップを参照して自分の住居周辺の浸水リスク・浸水ランクと水害時の避難所、そこまでの(複数の)経路を確認しておくことが基本となる。

もう一つ注意すべきは、洪水ハザードマップに表されている浸水は、多摩川など河川の氾濫による浸水であり、より狭い範囲での集中豪雨と下水の処理可能量の差などで発生する内水型の浸水は、予測も難しく極論すれば市内のどこでも発生し得るため、ハザードマップには反映されていない、ということである。

講義の後、多摩川六・七丁目、染地一丁目、布田五・六丁目の冠水想定地区と非冠水想定地区の四グループに分かれてワークショップを行った。それぞれの地区の拡大マップ上に、自宅の場所・災害時にも安全な避



議論して確認しあう染地地域のみなさん

調布市 防災教育の日 避難所訓練 4月27日開催



簡易トイレの組み立て

調布市防災教育の日は、東日本大震災を教訓に平成24年から毎年4月の第四土曜日に実施しているもので、今年で八回目。当地区協でも布田小と協力して毎年避難所訓練を行っている。毎回二百名以上が参加しているが、熊本地震直後だった平成28年には三百名近くに増加するなど、その年の状況や環境を反映している。

今年の調布市防災の日には前日まで四月とは思えない緊張感があり、この体育館が避難所となり当地区協が運営を担当することになる。普段からの人・情報・行動すべての積み重ねが大切だと改めて教えられた。

皆さんが愛するこの地域への願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるよう、当地区協へのご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

布田小地区ハッピータウン協議会
 会長 依田 耕児

◇「つみかさね」◇

雨天のため二日目は体育館とその前庭ロータリーでの開催となった今年の盆踊り。体育館での開催は初めての経験にも関わらず子どもたちの混乱のないように導線が引けるよう会場レイアウトが関係者によって綿密に計画配置されていた。

限られたスペースに整然と並び屋台出し物、状況を理解して粛々とその列に並び子どもたち。多くの人数が入りしても超満員の体育館には混乱の心配が全くない。

そして「これはまるで避難所訓練だ」と感じた。日頃の関係者の努力がチームワークとなってこのようなどっさの状況対応が見事に可能になるというお手本を見たような気がした。

緊急災害時にはこの体育館が避難所となり当地区協が運営を担当することになる。普段からの人・情報・行動すべての積み重ねが大切だと改めて教えられた。

皆さんが愛するこの地域への願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるよう、当地区協へのご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

布田小地区ハッピータウン協議会
 会長 依田 耕児

運営委員募集中!
 ★年6回の運営委員会
 ★防災教育の日 避難所訓練
 ★地域の安全安心活動
 お近くの上記運営委員にお尋ねください



布田小地区ハッピータウン協議会
 ホームページ
<https://happy-usako.jp>
 スマホ対応で見やすくなりました

はっぴーなきずな

海外へ行く機会が多くなった昨今。つい気の緩みから日本では禁止されている薬物に手を出してしまう。そのような事案を多く見受けられるようになった。一度の軽い気持ちから一生悔いの残る人生を送らせないように。ストップ薬物依存。(染地かもめ会自治会長 梅原 厚子)

耳に心地良い雨音は好きだけど、この何年かの大雨には警戒させられる。染地は浸水想定区域だが、自治会でも、会員に注意喚起の徹底とは、程遠いのが現状。総会や個人的に伝えるも、避難の必要性を分かってもらえたかな? (坂下 幸)

難所や公園その他・災害時には特に危険な場所・災害時に役立つ場所のシールを貼って「my減災マップ」を作ることがゴールだが、その過程でグループ内で色々な情報や意見の交換が行われ、参加者に好評だった。

当日会場での質問や参加者アンケートには、「居住地域についての防災知識と共に、土地勘のある近隣の方々の知識・経験が参考になった」「地域の繋がりを感じた」「高齢者など要配慮者への情報伝達方法について更に検討が必要」「茅ヶ崎市で公開されているマイ・タイムラインのサンプルの調布市版を作って欲しい」など、参加者の関心の高さを如実に表すものが多くあった。

この実施した講座の内容に関連して、今年の夏休み直前



講師の話熱心に聞きみなさん

今年度も年五〜六回の開催を予定しています。各回とも、カレーやシチューなど子ども達の好きな料理とデザートを、毎回異なるメニューで提供していることで、子どもたちに変人気が高いようです。

七月の回で、食べ終わった女の子が去り際にふともらした「毎日あれば良いのに」ということばにスタッフ全員の心が大変にいやされました。今後参加者数が増えてくると更に多くのサポートスタッフが必要となるため、お手伝い頂ける方は当地区協までご連絡いただけると大変助かります。

各回で多少の変動はあるものの、子どもたちがおおよそ六〜七割、残りの大人は保護者とサポートスタッフで、第二回からは布田小の先生方も約十名ずつ来場。学校の外で先生方と一緒に食事をするちよっとした非日常体験だけでも大変助かります。

地域の活躍人

梅雨の晴れ間となった六月の日曜日、布田小のグラウンドでクラブの練習を見学した。前日の雨降りでグラウンドはまだ湿りがち、高校生から20代のコーチ数人がキャッチボールをしている中に、ひときわ日焼けが目立つ男性が、「グラウンドが湿っているから、今日の練習は九時半からになりました！」と声をかけてくれたのが長谷川さんだった。

九時半になり部員の小学生が三々五々、集まって来るなり誰が指示するでもなく、道具やネットの準備、グラウンドの整備を始め、それが終わると上級生が号令をかけるが準備体操。決まったこととは言え、子ども達の自主性を重んじたやり方だと感じた。練習が始まると、部員一人一人のレベルや個性に応じた練習メニューを与えていくのだが、相手が誰であろうと親しみを込めながらも人格を尊重した話し方をされ



自分の居住地のハザードマップを手にしながら避難経路の確認

避難所訓練

い暑さが続き、熱中症さえ心配されたが、幸い冷気が心地よい雨上がりの天候となった。調布市が設定したテーマは、昨年に引き続き「避難所におけるトイレの確保と管理」。一方、今年ではAEDなどの訓練実演を行う消防署員や、起震車の派遣が無かったため、避難所での生活模擬体験と、地震への備えの学習に焦点を

が置いてあるので、必要な方は問い合わせを欲しい。
【なお、この出前講座が実施された後、五月末から災害発生時の避難勧告などについての5段階の警戒レベルによる表示方法が使われるようになっていたことを付け加えた。】



学校経由で配布されたマイタイムライン最新版

絞ったプログラムとした。

仮設トイレは布田小の防災備蓄倉庫に二基備えてあり、その内の一基を駐輪場で組立てて参加者に見てもらった。狭くて使いにくそう、という意見がある一方、災害時にこの程度用意できれば良い方ではないか、との慎重な意見も。実際に災害が発生して上下水道も使えなくなった場合には、体育館の既存トイレや携帯トイレも併用せざるを得な

ハッピー ども食堂 (続)

験は、子どもたちに喜ばれているようです。食材の購入方法などで節約の工夫を図っていますが、継続的な開催には資金の拠出が必要となっています。当実行委員会では、この活動の主旨に賛同する「ハッピーども食堂協賛サポーター」を募集中(個人および法人)です。協賛金は一口年間五千円。詳しくはハッピーども食堂担当・齋藤厚子(さいとうあつこ) 080-5402-4280まで。

えんがわファンドへの協力

市民活動支援センターが運営する「えんがわファンド」に、この「ハッピーども食堂」が助成団体の一つに選ばれ、さっそ

ているのが印象的だった。

長谷川さんは布田小の開校時に四年生として移籍してきた生粋の布田小育ち。当時からソフトボールが大好きで、高校生の時からこのクラブの

長谷川伸 さん

(はせがわ しん)

健育ソフトボール部監督



コーチとして活動を始めた。そして20歳そこそこで監督になって以来二十数年だそうです。小学生の部員にどんなことを学んで欲しいのかをお聞きしました。「基本的にはソフトボールに限ら

いだろうし、プールのため水も利用することになるだろう、と地区協メンバーが説明していた。
避難所生活の模擬体験についても好評なのはアルファ米の試食。例年は出来上がったアルファ米をお弁当として食べてもらったのだが、今年は箱を開けてお湯を注ぎ(非常時は水でも可)、30分置いてから袋ごと全体を混ぜ合わせるところも、参加者に体験してもらった。非常食というイメージがあるからか毎年、想像していたよりずっとおもしろかったとの感想がある。今年はそのに加えて、前回試食した時は硬くてまずかったのに、どうやらアルファ米でも調理法の良し悪しがあるのでですねという、ある参加者からのコメント。お湯を注いで15分後に上下逆さまにひっくり返すという方法は当地区協の経験から編み出したアルファ米調



アルファ米の配膳(上) 地区協スタッフ、布田小教員、調布南高校の皆さん(下)



大好評のキーマカレー (おなかいっぱい...)



助成金で購入したガス釜

くガス炊飯器などを購入しました。「えんがわファンド」は、使用済みの切手やカード・外国コインなどを回収整理し、専門業者に売却して財源の一部としていますので、地区協を含め地域でこれら回収活動に協力しようと思えます。布田南部自治会館内(布田五丁目)には使用済み切手回収ボックスを設置しましたので、ご協力お願いします。

ず、いろんな運動やチームでプレイすることを、楽しめるようになって欲しいなってことです。その監督の思いは子供たちにどう伝わっているだろう。それは、現在クラブの高校生、大学生また社会人のコーチたちが、昔このクラブの教え子だったという事実が、何よりも雄弁に語ってくれている。「小学生なので口で教えるだけではなくて、自分の体を動かして見本をみせるのも重要だと思っています。それが難しくなったら若いコーチに引き継ぐ時ということですね。」と監督は語ってくれました。

この広報誌が発行される頃は夏休み、ソフトボール部にとっては合宿や試合で最も充実した季節だ。長谷川さんに、自分で考え工夫するようにと教えられ、上級生になったら試合で活躍できるようにチャンスを与えてもらい、ソフトボール部員は生き生きと走り回っていることでしょう。

(文・藤田秀雄)

理の秘訣かもしれない。その間、熊本地震を経験したくまモンが主演する防災ビデオ「くまモンを視聴。キャラクタのくまモンが好評で、子どもたちにも楽しみながら地震防災の知識を学んでもらった。続いて長友市長と調布消防署長のあいさつ、最後に江原布田小学校長の終了宣言をもってほぼ予定時刻に終了。体育館の後片付けにも参加者が積極的に協力してくれて大変有意義な一日を過ごすことができた。ありがとうございました。

